

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年2月23日

**【評価実施概要】**

事業所番号	1271201301
法人名	株式会社ワカバ
事業所名	グループホームワカバ
所在地	〒271-0065 千葉県松戸市南花島4-65-5 阪田マンション2階 (電話) 047-363-3136

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年2月20日	評価確定日	5月1日

【情報提供票より】(20年1月27日事業所記入)

**(1) 組織概要**

開設年月日	平成13年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤6人, 非常勤 2人, 常勤換算8人	

**(2) 建物概要**

建物構造	耐火造り		
	7 階建ての	2 階 ~	2 階部分

**(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)**

家賃(平均月額)	55,000円	その他	食費56,700, 水道光熱費22,050, 寝具リース3,150, 理美容代, オムツ代など	
敷金	無		有りの場合償却の有無	有(期間:3年)
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000円)			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,890 円	

**(4) 利用者の概要(1月27日現在)**

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

**(5) 協力医療機関**

協力医療機関名	柏光陽病院
---------	-------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

JR松戸駅から徒歩約20分。閑静な住宅街にある7階建てマンションの2階を改装してグループホームにしている。日当たりが良く、ベランダに置かれたプランターには季節の花が植えられ、入居者の楽しみにもなっている。職員は、経験者と新人のチームワークがうまく機能しており、自由に意見が言える環境が整っていて、職員の向上意識も高い。

**【重点項目への取り組み状況】**

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	法人の運営方法について職員の意見をどう反映させていくかについては、管理者が職員の意見を吸い上げて、法人に稟議書を上げるようにした。緊急時の手当てについては、さらに全員参加の研修が望まれる。鍵を掛けない工夫は、センサー対応にし、現在職員のチームプレーを訓練しているところである。場所違いの目印については、手作りの表札にするなど工夫が見られた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が忙しいので、管理者が中心になって自己評価をしており、全員参加というところまでは到っていない。前回評価の指摘点は、全職員会議にかけサービスの質の向上に役立てた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議はまだ二回しか開かれていない。まずは定期的な開催を目指し、徐々に地域への広がりにつなげることが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口は契約書にも明記し、家族面会時にも声かけをして、意見を聞くようにしている。今後はパンフレットに謳ってある年2回のアンケートをぜひ実行して、さらに家族や利用者の声を聴き、運営に反映することが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者との散歩やごみ出し時に挨拶を交わす等、ホームへの理解を得る努力をしているが、十分とはいえない。地域の行事などに積極的に参加する等、より交流が深まることを期待したい。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「思いやりといたわりの心」を理念として掲げ、入居者との関係を築いている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目につく場所に掲示し、職員への浸透を図っている。管理者、職員ともに理念を実践しようとする努力が感じられる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しているが、なかなか行事に参加するところまではいかない。		今後は地域の行事に参加できるよう、積極的な働きかけをすることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価はケアの質の向上に資するとの認識で、昨年の改善が望まれた項目については、職員と共に改善に向けた取り組みを行ってきた。		成果がまだ出ていない項目については、改善シートに転記し、スタッフ会議などを通じて全員で取り組むことが望まれる。また、自己評価については、管理者が一人で行なうのではなく、職員全員で話し合っ進めると良いと思われる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに2回開催し、グループホームへの理解が生まれつつあるが、定期的な開催に繋がっていない。		より多くの参加が得られるような企画や日程の調整をして、定期的開催されるようにしていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度、市の介護相談員を受け入れている。市の担当職員が交代することがあるが、機会を作って市役所を訪問し、情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と共に、居室担当職員が書いた介護連絡表、お小遣い帳、生活の様子を映した写真を送ったり、緊急時には電話連絡でご家族への報告を行っている。家族会の開催や定期的なホーム便りの発行も検討中である。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置していないが、苦情相談窓口は契約書でも明記し、クレームがあったら即対応して原因を職員で共有し、再発防止に努めている。		パンフレットにある年2回の家族アンケートをぜひ実施して、より一層家族の本音を引き出すことが期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	福利厚生面の充実や職員が悩みを相談しやすい環境づくりで離職を防ぐよう努めていると共に、離職が避けられない場合は、新旧職員と一緒に働く期間を設け、ダメージが少なくなるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採者は研修期間に2回の評価を行い、足りないところを補い、育成している。外部研修は、我孫子市の年間研修計画を掲示し、参加を促している。		内部研修も含めて、年間の計画を立て、職員全員が一人ひとりの段階に応じ、必要な研修を受けることが可能な体制作りが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や事業所連絡会に参加し、情報交換や交流を心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同じ法人が運営する小規模多機能施設からの入居者は、職員と入居者が顔なじみでもあり、安心感を得ている。病院や一般家庭からの入居者には、管理者が出向いて面談を重ねている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、料理や洗濯の干し方等のほか、生き方そのものを、入居者の姿から教わることも多く、良い関係性が構築されている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントを取り、把握に努めるとともに、入居者の本心がどこにあるか判断がつかない時は、職員以外が聞いたほうが言いやすい場合もあると考え、介護相談員を介することもある。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意見を取り入れるとともに、職員の気づきも介護計画に反映するようにしている。また、作成した介護計画に対して、本人や家族の意見・要望を聞くための書式がある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状態に変化があった時は、その都度、連絡ノートや申し送りスタッフ間の対応の共有化を図っている。</p>		<p>臨機応変に対応はしているが、介護計画の見直しに到るまでに時間がかかっている。定期的な見直しについても、時期がずれている。日々のケアは現状に即したものになっているので、今後は介護計画そのものの見直しを早急を実施し、介護計画に沿ってケアをしていくことが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	掛かりつけ医の通院に同行している。めがねが壊れた入居者に付き添って、家族の理解を得た上で、新しいめがねを作りにいったりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を確保してはいるが、入居者や家族の要望に応じて、眼科等かかりつけ医への受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての取り決めを、契約の段階から示し、重度化する前に、主治医や家族と話し合いを持つようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱いには、管理者、職員ともに注意を払っている様子が伺える。トイレリビングが近いので、もう少しプライバシーが守られると、さらに良いと思われる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事はせかされることなく、食後もゆったりと過ごすことができる。他の入居者が食べはじめてしばらく経ってから、居室から出てくる人もいるなど、自分のペースで生活をしている様子が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューはスタッフが考えるので、その際、入居者の意見も取り入れるようにしている。また、介助が必要な人には職員が隣に座り、一緒に食事をとりながら、さりげなく介助をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番や長さもできるだけ、要望に応じるようにしている。また、曜日や時間帯については、基本はあるが、それに捉われないこと、臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	長年してきた茶碗洗いを進んで引き受ける入居者やプランターの花の世話を楽しみにしている人等、役割や楽しみを持つことの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一度に全員の希望を叶えるのはなかなか難しいが、できる限り、散歩や買物等、ひとりひとりの希望に沿うように努力をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回外部評価と同じく、玄関は施錠されている。		現在、開放を前提にして、職員が見守り体制づくりの話し合いを行っている。できるだけ早い時期に改善することが望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は行なわれているが、職員全員の参加ではない。また、前回の訓練から期間が開きすぎている。		まず、早急に全員参加で訓練を行い、さらに地域との連携を深めて、いざという時の協力が得られるようにしていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限のある入居者もあり、水分摂取量は細かく記録している。また、何かの事情で食事が十分摂れなかったときは、栄養ドリンクで補う等、栄養摂取の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花や雛人形で季節が感じられた。また、明るく暖かなリビングは対面式キッチンに向ってカウンターもあり、調理の音や匂いが、家庭を思わせるものになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや、お気に入りの人形を置いたり、ベッドを使用する入居者もいれば、布団を敷いて寝る人もいる等、思い思いの居室にしている。		